

ケア現場



松丸晃一郎
所長

銀木犀鎌ヶ谷

敷地内に駄菓子屋

入居者が自ら管理

開設から1年未満で満床となったサービスピッキ高齡者向け住宅「銀木犀鎌ヶ谷」（千葉県鎌ヶ谷市）では、「やりすぎない介護」を目標に、高齡者の残存能力を活かすサービスピックを提供している。同住宅では昨年11月に

9時〜18時まで。多いときは1日30人が来訪するなど、入居者だけでなく、ほぼ毎日地域住民も訪れている。企画段階で近所の子供たちと協力してもらったこ



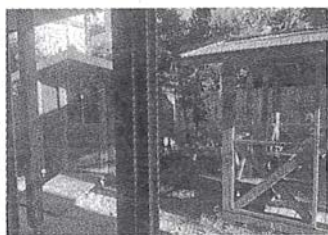
▶多種類の菓子が陳列

とがきつかけで子供たちも頻繁に足を運ぶ。子供たちとの企画会議はおよそ3ヵ月にわたって行われた。松丸晃一郎所長自ら公園に出向き、「駄菓子屋を作るから一緒に考えよう」と話しかけ、徐々に距離を縮めていった。募ったアイデアは「どういう部屋にしたか」、「買いたい菓子は何か」、など。その後、各々が思い描く理想の駄菓子屋をイラストにとしてもらった。

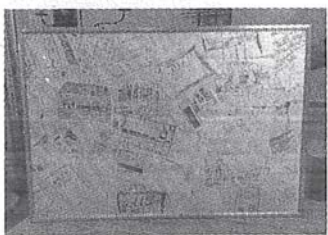
「駄菓子屋開設をきっかけに子供たちとの交流の機会が増加した。入居者の誕生日に子供たちから

『住宅内では入居者を敬いあいさつすること』をお願いしています」（松丸所長）

「当住宅には、小学生の子供たちがよく遊びに来ます。子供たちに対しては、『当住宅に来ることを親に伝えること』



▶共有スペースのすぐ向かいに設置



▶子供たちが作成したイラスト